



全国各地から桜開花の知らせが届く今日この頃です。皆さん、いかがお過ごしですか？冒頭の写真は、桜越しの甲斐駒ヶ岳です。ここは、山梨県北杜市の実相寺というお寺で、日本三大桜の一つの「山高神代桜」で知られています。この桜は、推定樹齢2,000年、日本最古、いやおそらく世界最古！の桜ということになります。この場所の魅力は、日本最古の桜だけでなく、この境内のサクラ越しの南アルプスという景観でしょう。天気にも恵まれて、絶好の条件でこの景観と世界最古の桜を楽しんだ1日でした。

さて6月の確定表をお送りします。まずは高尾山です。イナモリソウやウメガサソウ、サイハイランなど6月も高尾山は花祭りです。2年連続ですが、ハヶ岳南沢です。今年もホテイランに会いたい！次も定番ですが、入笠山のスズランと甘利山のレンゲツツジです。花も山岳展望も楽しめるのが魅力です。最後は、磐梯山のバンダイクワガタです。1泊2日のプランです。6月は、梅雨の季節です。とはいえ毎日雨が降るわけでもありません。梅雨の晴れ間の美しさもあります。きっといい巡り合わせになるでしょう。多分！

ところで、アメリカのトランプ大統領です。強烈な自国主義を振りかざして世界に波紋を起こしています。かつての悲惨な世界大戦を経て、かろうじて築かれ、保たれてきたかに見える国際協調の仕組みを、最も簡単にちゃぶ台返ししたのがこのトランプ政権の振る舞いです。自分の発言に責任を取ることなく、前言を覆しても意に介さない。まるで出来の悪い西部劇の中に出てくる、力を武器に横車を押す悪徳牧場主のようです。

そんな男が、核大国の核のボタンを手にしているわけです。二大核大国のもう一方は、ロシアのプーチンです。このような指導者たちに核のボタンが委ねられているという現実には背筋が寒くなる思いがします。「核抑止論」や「核の傘論」がはたして本当に成り立っているのでしょうか。それを成り立たせていた前提条件（あったとして）は、すでに虚構に過ぎないとしか思えません。トランプ政権の関税政策は、各国に民族主義の高まりや貿易戦争の火種となりかねない危機を孕んでいます。

この自国主義と自国主義のぶつかり合いは、戦争への道に導かれる危うさを感じています。過去の歴史が、そんな未来を示唆しています。日本国内にも威勢の良いことをコメントする向きもあります。それに惑わされず、冷静に判断していきたいものです。

それでは皆さん、また山でお会いしましょう！